

第 17 回 日本データベース学会通常総会議事録 (案)

日時：2018年6月22日(金) 午後 17:45 ~ 18:40

場所：株式会社 LIFULL

〒102-0083 東京都千代田区麹町 1-4-4

出席者：出席者 201 名 (委任状 163 名、総会出席正会員 38 名)

議題：

- 1) 2017 年度 事業報告ならびに決算について
- 2) 2017 年度 監査報告
- 3) 役員人数の変更 (定款改訂)
- 4) 2018 年度 役員について
- 5) 2018 年度 事業計画および予算について

1. 司会の飯沢副会長から 第 17 回日本データベース学会通常総会の開会の辞が述べられ、通常総会が開始された。本総会は、日本データベース学会と一体運営を行っている ACM SIGMOD 日本支部の「2017 年度 ACM SIGMOD 日本支部年次事務会議」を兼ねていることが述べられた。本会定款第 49 条の規定に基づき、通常総会の定足数は 165 名となること、および、出席者が委任状 163 名と総会出席の正会員数 38 名を足し合わせて 201 名となり定足数を満たしており、本総会が成立していることが宣言された。定款第 48 条により清木会長を本通常総会の議長として選出した。
2. 議長の清木会長より、本学会の目的、体制の説明に続き、2017 年度事業報告として、各事業(*1)の活動内容について、それぞれ報告が行われた。続けて、飯沢副会長より 2017 年度決算報告(*2) が行われた。
 - *1 論文誌刊行、研究推進、産学連携推進、表彰、企画、国際関係推進、男女共同参画推進、電子広報、情報システム、倫理綱領制定、総会・理事会・評議会の各事業
 - *2 一般会計 (収入、支出)、特別会計
3. 北川監事により 2017 年度の会計について、監査報告が行われた。北川監事および土田監事により 5 月 7 日に実施された監査の結果として、「2017 年度収支計算書について厳正に監査いたしました結果、適正に処理され妥当であることを報告いたします」との監査報告が行われた。
4. 清木会長より、役員人数の変更のための定款改訂について説明が行われた。役員をこれまでの 30 名から 35 名に増員することを目的とした、定款第 14 条の変更箇所が示された。拍手をもって、この定款の改訂が承認された。
5. 清木会長より、2018 年度の新体制に関して、定款第 15 条に基づいて選出された会長、副会長、監事、理事の各候補者について説明が行われた。拍手をもって各候補者が選任され、2018 年度は喜連川会長、飯沢副会長、灘本副会長、山名副会長を中心とする新体制となることが承認された。

6. 清木会長より、2018年度事業計画が報告された。2018年度の事業として、オープンイノベーション・広報推進委員会の新規発足、及び、論文誌刊行事業、研究推進事業、産学連携事業、表彰事業、企画・国際委員会活動事業、男女共同参画推進事業、電子広報事業、情報システム事業を継続して実施していくこと、及び、理事会・評議会・総会の開催計画について報告が行われた。
引き続き、飯沢副会長より、2018年度収支予算(*3)が報告された。
拍手をもって、2018年度事業計画、及び、2018年度収支予算が承認された。
*3 2017年度と同様、一般会計（収入、支出）、特別会計
7. 清木会長より、ACM SIGMOD 日本支部の活動に関し、2018年度については、役員任期が2年であるため、2017年度と同じ体制で継続して運営される旨の報告が行われ、拍手をもって承認された。
8. 清木会長より、退任の挨拶があった。DBSJのエッセンスとは、社会に良いメッセージを発信し続けることであり、そのためにはイノベーション、チャレンジし続けることが重要である、という言葉が贈られた。
9. 喜連川新会長より、就任の挨拶があった。データがなければAIの発展はない。近年はData Scientistに注目が集まっているが、データを整理するData Engineerの重要性を訴えていきたいとの抱負が述べられた。
10. 飯沢副会長より、第17回日本データベース学会通常総会の終了が宣言され、閉会となった。

以上